

＜参考＞ 評価関連用語集

ここに掲載した評価関連用語は、経済協力開発機構（OECD）発行の「評価と援助の有効性－評価および結果重視マネジメントにおける基本用語集」に記載されているもので、2002年、開発援助委員会（DAC）の評価作業部会（DACの下部組織として運営されており、評価方法を改善し開発協力政策の一手段としての評価の活用を推進するためドナー国及び国際機関の開発の評価に関する専門家が定期的に集まり、互いの経験を共有している国際的な場で、現在は開発評価ネットワークに改称）が、世界の開発・評価関係者が評価において用いる用語を共通化すると共に意味を明確に

することによって、開発と評価に関わるすべての人たちの対話と理解がより促進されることを目的として選定したものです。

原文は、英語、フランス語、スペイン語で作成されており、ここでは英語版をもとに日本語版を作成したものです。外国語原文についてはOECDのウェブサイト（<http://www.oecd.org/dataoecd/29/21/2754804.pdf>）で見ることができます。

掲載の語順については、原文との比較を容易にするため、原文の掲載順のまま、原文のアルファベット順で掲載してあります。

アカウンタビリティ（説明責任）
Accountability

事前に合意した規定と基準に従って事業を遂行したことを明示する義務。または、与えられた権限に基づく役割及び（又は）計画に照らして、実績（パフォーマンス）を公正かつ正確に報告する義務。場合によっては、事業が契約条件に一致していることを入念に、また法的にも説明しうることが求められる。

注：開発分野におけるアカウンタビリティ（説明責任）とは、定められた責任、役割、期待される実績（パフォーマンス）に従った援助関係者の活動義務、時として、資源の適切使用という観点からの義務に関し言及される場合がある。評価者にとっては、正確、公正かつ信頼できるモニタリングの報告と、実績測定結果を提供する責任をも意味する。また、公共部門の責任者及び政策立案者にとってアカウンタビリティ（説明責任）とは、納税者ないし市民に対するものである。

活動 Activity

資金、技術支援及びその他の資源の投入（インプット）により特定の産出物（アウトプット）を生み出すためにとられる行動または業務のこと。

関連項目：開発援助

分析手段 Analytical tools

評価に際し、情報を処理、解釈するために使われる手法。

審査 Appraisal

資金抛出の決定前に、開発支援の妥当性、実施可能性及び潜在的な持続性を全体的に査定すること。

注：開発援助機関、開発銀行等では、審査の目的は、意志決定者が、活動のために組織の資金を適切に利用しているかどうかを判断させることにある。

関連項目：事前評価

仮定 Assumptions

開発援助の進捗や成功に影響を及ぼす可能性のある要因またはリスクに関する仮説。

注：仮定は、評価自体の妥当性に影響する仮定条件と捉えることもできる（例：調査のためのサンプリング手順を計画する際の母集団の特性などに関する前提）。予期した結果の連鎖を系統立てて追跡する評価方法である「セオリー評価（Theory based evaluations）」では、仮定が顕著に示される。

帰属 Attribution

観察（あるいは期待）された変化と特定の援助とをある因果関係に結びつけること。

注：帰属とは、観察された変化、あるいは達成された結果について、その原因となったものを指す。

観察された開発効果が、他の援助や（予期したか否かに関わらず）阻害要因、あるいは外的影響を考慮した上で、どの程度特定の援助、あるいは複数の援助関係者による援助行為によるものかの程度を示す。

監査 Audit

ある組織業務の改善や（組織の）価値付加を目的として計画された、独立かつ客観的な確認行為。リスク管理、統制、組織運営プロセスの有効性を査定、改善するための系統的、規律ある取り組みを用いて、組織が目標を達成できるよう支援する。

注：通常の監査（財務監査）と実績監査は異なるものであり、前者が法令や規則と合致しているかという点（合規性）に着目するのに対し、後者は妥当性、経済性及び効率性、有効性に着目する。外部監査が独立した組織によって実施されるのに対し、内部監査は内部管理の査定を行い、事業実施部門への報告担当部門が実施する。

ベースライン調査（基礎調査）

Base-line study

開発援助に先だって実施される現状分析のことであり、この分析に基づいて、進捗状況の査定や比較が行われる。

ベンチマーク（評価基準） **Benchmark**

実績（パフォーマンス）の達成度を査定する際参考となる点または基準。

注：ベンチマークは、他の類似機関が最近達成した実績（パフォーマンス）またはその状況の中で達成されるであろうと推測される事柄も意味する。

受益者 **Beneficiaries**

本来より裨益の対象であるか否かに拘わらず、開発援助によって直接または間接的に便益を受ける個人、グループ、組織。

関連用語：対象範囲（影響範囲）、ターゲット・グループ

クラスター評価 **Cluster evaluation**

関連する一連の活動、プロジェクト及び（又は）プログラムの評価。

結論 **Conclusions**

結論とは、評価対象となる援助の成功要因と失敗要因を指摘すること。特にその結果やインパクトが意図されていたものであるか否か、さらにより一般的に援助のその他の長所と短所にも注意を払う。結論はデータ収集及び分析をもとに、透明性の保たれた一連の議論を通して導き出される。

反事実的状况 **Counterfactual**

開発援助が行われなかった場合に、当該個人、組織、グループが置かれたであろうと想定される状況あるいは状態。

国別プログラム評価／国別援助評価

Country Program Evaluation／Country Assistance Evaluation

被援助国において、ドナー国または機関が担当する複

数の開発援助、及びその背景にある援助戦略の評価。

訳注：単に「国別評価」と称されることもある。

データ収集手段 **Data Collection Tools**

評価作業において、情報源の特定と情報収集を行うために用いられる方法。

注：例として、公式及び非公式調査、直接及び参加型観察、コミュニティ・インタビュー、フォーカス・グループ（ディスカッション）、有識者の意見、事例研究、文献資料調査など。

開発援助（インターベンション）

Development Intervention

開発を促進するために援助関係者（ドナー及び非ドナー）が支援を行うための手段。**注：**例として、政策提言、プロジェクト、プログラムなどが挙げられる。

開発目標 **Development objective**

一つまたは複数の開発援助を通じて、ある社会、コミュニティ、グループに対し物理的、財政的、制度的、社会的、環境的その他様々な便益に貢献する、意図されているインパクト。

経済性 **Economy**

アウトプット（産出物）に無駄がないこと。

注：利用資源コストが、計画目標を達成するための必要最小限に近似しているとき、その活動は経済性があるといえる。

効果 **Effect**

意図されたものであるか否かに関わらず、援助によって直接あるいは間接的に生じる変化。

関連用語：結果、アウトカム（成果）

有効性 **Effectiveness**

開発援助の目標が実際に達成された、あるいはこれから達成されると見込まれる度合いのことであり、目標の相対的な重要度も勘案しながら判断する。

注：「有効性」とは、ある活動の利点または価値を総合的に測る尺度（もしくは判断）としても用いられる。すなわち、当該援助が、持続的な方法で、制度の発展にプラスのインパクトをもたらしながら、主要な目標を効率的に達成した度合いのこと。

関連語：効率性

効率性 **Efficiency**

資源及び（又は）インプット（投入）（資金、専門技術

(知識)、時間など) がいかに経済的に結果を生み出したかを示す尺度。

評価の可能性 Evaluability

活動やプログラムが信用、信頼に値する形で評価される度合い。
注：評価の可能性の査定では、活動の目標が適切に定められているか、その結果が実証可能かどうかを確認するために、評価対象の活動を早期に見直すことを必要とする。

評価 Evaluation

現在実施中、あるいは既に終了したプロジェクト、プログラム、政策及びその計画、実施、結果についての体系的かつ客観的な査定のこと。目標の妥当性及び達成度、開発の効率性、有効性、インパクト、持続性の判断を目的とする。評価は、得られる教訓が被援助国側、ドナー側双方の意思決定のプロセスに活用されるような信頼性及び有用性の高い情報を提供するものでなければならない。
また、評価は活動、政策、プログラムの価値や意義を決定するプロセスであり、計画中、実施中または既に終了した開発援助の、可能な限り体系的かつ客観的な査定である。
注：評価は、場合によって、適切な基準の定義づけ、これらの基準に照らした実績の検証、実際の結果と予測される結果の査定、及び関連する教訓の確定を含む。
関連用語：レビュー

事前評価 Ex-ante evaluation

開発援助の実施前に行われる評価。
関係用語：審査、開発支援開始時の質

事後評価 Ex-post evaluation

開発援助の終了後に行われる評価。
注：これは終了直後に行われることもあれば、終了後時間をおいてから行われることもある。成功要因及び失敗要因を明確にし、結果及びインパクトの持続性を査定し、またその他の援助の参考となるような結論を導き出すことが目的である。

外部評価 External evaluation

ドナーや援助実施機関以外の組織及び（又は）個人によって行われる開発援助の評価。

フィードバック Feedback

評価プロセスを通じて得られた評価結果を関係者に伝

達することは、学習促進の観点から有益である。また評価結果、結論、提言、経験から導き出された教訓の収集及び普及が含まれることもある。

評価結果 Finding

ひとつまたは複数の評価から明らかにされた根拠に基づいて見いだされ、事実関係を報告するもの。

形成評価 Formative evaluation

実績（パフォーマンス）を改善するために行われる評価であり、そのほとんどはプロジェクトやプログラムの実施段階で行われる。
注：形成評価は、法令等の遵守程度（コンプライアンス）、法律上の要請あるいはより大きな評価作業の一部として行われることもある。
関連用語：プロセス評価

上位目標 Goal

開発援助による貢献が期待される、より高次の目標。
関連用語：開発目標

インパクト Impacts

開発援助によって直接または間接的に、意図的であるか否かを問わず生じる、肯定的、否定的及び一次的、二次的な長期的効果。

独立評価 Independent evaluation

（評価の対象となる）開発援助の計画及び実施の責任者からの制約を受けない組織や個人によって行われる評価。
注：評価の信頼性は、評価がいかに独立して実施されたかという点にある程度かかっている。ここで独立とは、政治的影響や組織の圧力に左右されないことを意味する。独立評価は、情報への完全なアクセスがあること、調査の実施及び評価結果の報告において評価者の完全な自主性が保たれるという特徴をもつ。

指標 Indicator

量的又は質的な要素又は変数のこと。これによって援助の達成度を測定し、支援によって生じた変化を明示し、または開発関係者の実績（パフォーマンス）を査定する手助けとなる簡潔かつ信頼できる手段が得られる。

インスト（投入） Inputs

開発援助に使用される財政的、人的及び物質的資源。

組織制度的開発インパクト

Institutional Development Impact

援助によって国又は地域が人的、財政的及び天然資源を効果的、公正かつ持続的に利用する能力を向上あるいは減退させる度合い。例えば、(a) 組織制度の仕組みの明確さ、安定性、透明性、実行力及び予測可能性が向上すること、及び（又は）(b) これら組織制度の仕組みに相応する、組織の任務と能力がその権限により整合することになることなどである。こうしたインパクトには、意図された効果と、意図されない効果が含まれる。

内部評価 Internal evaluation

ドナー、援助関係者あるいは援助実施機関の事業運営部門に対する報告を行う部局及び（又は）個人によって行われる開発援助の評価。

関連用語：自己評価

合同評価 Joint evaluation

複数の援助機関及び（又は）援助関係者が参加して行う評価。

注：個々の援助関係者の評価プロセスへの協力、評価のための資源、個々の評価報告の組合わせによって、さまざまな「合同」の程度がある。合同評価は、プログラム及び戦略の有効性、複数の援助関係者による支援の補完性、援助協調の質等を査定する際に生じる個々のドナーへの帰属問題を克服するために役立つ。

教訓 Lessons learned

プロジェクト、プログラム、政策の評価経験に基づく帰納的結果であり、特定の状況から抽出され、より幅広い場面に適用される。「教訓」により、準備、計画、実施というそれぞれの段階において、実績（パフォーマンス）、アウトカム（成果）及びインパクトに影響を与える長所や短所が明確になることも多い。

ロジカル フレームワーク（ログフレーム）

Logical framework (Logframe)

援助計画を改善させるために用いられる運用手段であり、多くの場合プロジェクト・レベルで使われる。戦略的要素（インプット（投入）、アウトプット（産出物）、アウトカム（成果）、インパクト）とこれらの因果関係、指標及び成功及び失敗に影響しうる仮定あるいはリスクを特定する作業を含む。開発援助の計画、実施及び評価を促進するものである。

関連用語：結果重視マネジメント

メタ評価 Meta-evaluation

一連の評価結果を集計することを意図した評価。また、評価の質の判断及び（又は）評価実施者の実績（パフォーマンス）を査定するための、評価の評価という意味で使われることもある。

中間評価 Mid-term evaluation

援助実施の中間段階に行われる評価。

関連用語：形成評価

モニタリング Monitoring

実施中の開発援助の事業運営部門や主な利害関係者に対して、目標の進捗及び達成度、配分された資金の活用状況に関する情報を提供するために、特定の指標に関する体系的に集積されたデータを用いて行う継続的な活動。

関連用語：実績モニタリング、指標

アウトカム（成果） Outcome

援助のアウトプット（産出物）によって達成が見込まれる、または達成された短期的及び中期的な効果。

関連用語：結果、アウトプット（産出物）、インパクト、効果

アウトプット（産出物） Outputs

援助の結果として生み出される産出物、資本財及びサービス。援助により生じた変化であって、アウトカム（成果）達成に関連する変化を含むこともある。

参加型評価 Participatory evaluation

援助機関及び（受益者を含む）利害関係者の代表が、共同で評価を計画、実施、解釈するという評価手法。

援助関係者（パートナー） Partners

相互に合意した目標を達成するために協働する個人及び（又は）組織。

注：パートナーシップの概念は、共通の上位目標、アウトカム（成果）に対する共同責任、明確なアカウンタビリティ（説明責任）及び相互義務を含んでいる。援助関係者には、政府、市民社会、非政府組織、大学、専門及び事業団体、多国間機関、民間企業などが含まれることもある。

実績（パフォーマンス） Performance

開発援助あるいは開発の関係者が、特定の基準、標準、ガイドラインに従って活動した度合い、または設定された上位目標や計画に従った結果の達成度。

実績指標 Performance indicator

開発援助の中で生じた変化を立証するため、当初の計画と比較した結果を示すための変数。

関連用語：実績モニタリング、実績測定

実績測定 Performance measurement

設定された上位目標に対する開発援助の実績（パフォーマンス）を査定するためのシステム。

関連用語：実績モニタリング、指標

実績モニタリング Performance monitoring

プロジェクト、プログラム、政策が期待される結果に対してどの程度達成されているかを比較するために、データを収集、分析する継続的なプロセス。

プロセス評価 Process evaluation

実施機関内部の状況、政策手段、サービス提供のメカニズム、事業実施方法、またこれらの連携状況の評価。

関連用語：形成評価

プログラム評価 Program evaluation

特定の地球規模、地域別、国別、分野別開発目標を達成するために整理された一連の援助の評価。

注：開発プログラムとは、分野、課題、及び（又は）地理的範囲を超えて横断的に実施されうる、複数の活動を含む限定された期間内の援助のことである。

関連用語：国別プログラム／戦略評価

プロジェクト評価 Project evaluation

個々の開発援助案件を対象とする評価であり、一定の資源と実施期間内で、また、往々にして、より広範に及ぶプログラムの枠内において、特定の目標を達成することを意図するもの。

注：測定可能な便益をもつプロジェクトの場合、費用便益分析は、プロジェクト評価の主要な手法である。便益が数量化できない場合は、費用対効果がふさわしいアプローチとなる。

プロジェクトあるいはプログラム目標
Project or program objective

意図された物理的、財政的、組織制度的、社会的、環境的、あるいはその他の開発援助結果であり、これらの実現に向け、プロジェクトもしくはプログラムが貢献することが期待されているもの。

目的 Purpose

公式に発表された開発援助プログラムあるいはプロジ

ェクトの目標。

質の保証 Quality Assurance

開発援助の長所、価値あるいは所与の基準との整合性を査定及び改善することに関わるあらゆる活動のこと。

注：質保証業務には、審査、RBM（結果重視マネジメント）、実施中のレビュー、評価などが含まれる。開発援助の組み合わせの質及びその開発効果について査定することも指す。

対象範囲（影響範囲） Reach

開発援助の受益者及びその他の利害関係者。

関連用語：受益者

提言 Recommendations

1) 開発援助の有効性、質、効率性の向上、2) 目標の再検討、3) 資源の再分配、を目的として行われる提案。提言は結論と関連付けられなければならない。

妥当性 Relevance

開発援助の目標が、受益者の要望、対象国のニーズ、地球規模の優先課題及び援助関係者とドナーの政策と整合している程度。

注：結果として、妥当性の問題は、援助の目標あるいはその計画が、状況が変化した後でも依然として適切なものであるかどうかという点を問われることが多い。

信頼性 Reliability

評価データを収集、解釈するための手法、手順、分析の質に関連したデータや評価判断の一貫性もしくは信頼性のこと。

注：同様の条件下で、同様の手法を用いて繰り返し行った観察によって、同様の結果が得られた場合、その評価情報は信頼できるといえる。

結果 Results

開発援助のアウトプット（産出物）、アウトカム（成果）、あるいはインパクト（意図的なもの、意図的でないもの、肯定的なもの、及び（又は）否定的なものを含む）。

関連用語：アウトカム（成果）、効果、インパクト

結果の連鎖 Results Chain

開発援助における因果関係の連鎖のことであり、期待される目標を達成するために必要な一連の流れ、すなわち、インプット（投入）に始まり、活動及びアウトプット（産出物）に移行し、アウトカム（成果）、インパクト、フィードバックに至るまでの連鎖を規定するもの。援助

機関によっては、対象範囲（影響範囲）もこの結果の連鎖の一部に含まれる。

関連用語：仮定、結果のフレームワーク

結果のフレームワーク Results framework

開発目標がどのように達成されるかを説明するプログラムの論理であり、因果関係やその背景にある仮定を含む。

関連用語：結果の連鎖、ロジカル・フレームワーク

結果重視マネジメント
Results-Based Management (RBM)

実績（パフォーマンス）及びアウトプット（産出物）、アウトカム（成果）、インパクトの達成に焦点を置いたマネジメント戦略。

関連用語：ロジカル・フレームワーク

レビュー Review

定期的あるいは随時行われる援助の実績（パフォーマンス）の査定。

注：「評価」という語はしばしば「レビュー」よりも総合的及び（又は）より詳細な査定を意味するものとして使われる。レビューは実施面に重点を置く傾向がある。時折「レビュー」と「評価」が同義語として使われることがある。

関連用語：評価

リスク分析 Risk analysis

援助目標達成に影響する、もしくは影響要因（ログフレームでは仮定と呼ばれる）の分析もしくは推定。開発援助によって引き起こされる、人の生命、健康、財産もしくは環境への望ましくない負の結果が生じる可能性についての詳細な検査、及びこうした望ましくない結果に関する情報を提供するための体系的プロセス、並びに明確になったリスクに関し、それが生じる確率及び予想されるインパクトを定量化するプロセスのこと。

セクター フログラム評価
Sector program evaluation

特定の開発目標の達成に貢献する、一国内もしくは複数国にまたがる特定の分野における開発援助の集合体を対象とした評価。

注：セクターには、保健、教育、農業、運輸等の公共活動の目的に応じた複数の開発活動が含まれる。

自己評価 Self-evaluation

開発援助の計画及び実施関係者による評価。

利害関係者 Stakeholders

開発援助あるいはその評価に、直接または間接的に利害を有する機関、組織、グループ、個人。

総括評価 Summative evaluation

援助の特定の段階もしくは終了時に、当初見込まれたアウトカム（成果）がどの程度実現されたかを判断するための調査。総括評価はプログラムの価値について情報を提供することを目的とする。

関連用語：インパクト評価

持続性（自立発展性） Sustainability

開発援助終了後に開発の結果から得られる主立った便益の持続性。

長期的便益が継続する蓋然性。時間の経過に伴い開発の純益が失われていくというリスクに対する回復力。

ターゲット グループ Target group

援助の裨益対象となる特定の個人または組織。

業務指示書（TOR） Terms of reference

評価目的及び範囲、用いられる手法、実績（パフォーマンス）の査定や分析を行うための基準、配分される資源及び時間、さらに報告すべき事項を明示した文書。「業務範囲」「評価委託」の表現も同義語として用いられることがある。

テーマ別評価 Thematic evaluation

複数の国、地域、分野横断的に特定の開発援助を抽出したものに対して行う評価。

トライアングレーション（三者測定）
Triangulation

ある査定（アセスメント）を立証及び実証するために、3つもしくはそれ以上の理論、情報源または情報の種類、出所、分析の類型を用いること。

注：複数の情報源、手法、分析、理論を組み合わせることによって、評価者が単一の情報提供者、手法、単独の観察者あるいは理論研究による偏りを克服することを目的とする。

正当性 Validity

当該データ収集戦略及び手法によって、測定しようとしたものをどの程度測定できるのかという度合い。